

平成 25 年度まちづくり懇談会会議録【六郷地区】

日 時 平成 25 年 10 月 30 日 19:00~20:30
会 場 文化会館アエル 小ホール
参加者 153 人

「菊川市の危機管理体制と地域防災計画について」と題した説明のあと、参加者の皆さまとの懇談（質疑応答）に入りました。

会場からのご意見・ご質問

牧之原上：男性

2011 年の東日本大震災以後、福島で大変なことになっていて、テレビの特別番組や新聞記事を見ている。静岡市の議員さんから福島の DVD を送ってもらって見たところ、世界の中で日本の原発は危険なところに立地しており、中でも浜岡が一番危ないという。浜岡原発の下には活断層があって何かしらの事故もあり得るという。大地震の時に福島のようになってはいけませんが……。柏崎は避難計画が既に考えてあり、それは風向きを考慮して避難するという。福島では逃げた先で放射線量が高かったというので、正しい情報をいただきたい。静岡新聞の資料では 31 km 圏内は屋内退避、避難する時は長袖、マスクをして風向きに注意をして逃げろと書いてある。避難について正しい情報がほしいと思う。安定ヨウ素剤はチェルノブイリの報道では甲状腺に溜まるのを防ぐというが、副作用もあるという。備蓄があるといったが、副作用にどのようなものがあるか教えて欲しい。早く飲まないとも効果が薄くなるという。どういう場合にどういう風に服用するのか教えてほしい。

危機管理部長からの回答

福島の被害では通信手段が途絶え情報が入らなかったとも聞く。市では衛星電話を導入し、しっかりと情報を得るようにしていきます。現在、広域避難計画を県が作成しているところなので、断片的ではなく、出来上がった段階で整理してお話をさせていただきます。安定ヨウ素剤は、避難の過程で服用することになります。副作用の心配もありますが、甲状腺被爆とどちらをとるかということになりますが、服用は医師の判断を仰ぐことになります。

自治会：男性

今日の話は同報無線など耳が聞こえる人への対応で、聞こえない人はどのよ

うに情報を得ればいいのか。昔のように大家族で、家族のなかで誰かが聞けるならばいいが、核家族化が進み、夫婦ともに聞こえないといった家庭も多い。特に夜は不安。今は情報をFAXでもらっているが、外出しているときは情報を知ることができない。早く携帯電話に情報が入るようにしてほしい。先ほどの説明で準備があると言われたが、計画を伺いたい。

危機管理部長からの回答

同報無線も古くなりラジオ受信に換えているがそれも聞こえにくい。登録していただいて、メールを配信するようなシステムを導入できないか考えていますので、導入できればお知らせします。

下本所：男性

7月に市長をはじめとして市役所職員が福島を視察したというが、その感想を教えて欲しい。福島では2万人以上の方が家に帰れないという。もしかしたら菊川が飯館のようになっていたかもしれない。原発が動かないのが最善だと思うが、どの様に安全確保をしていくのか。5号炉は非常に危険な場所に立っている。レベル2の対応をしているというが、原子力規制委員会が発表した南海トラフ、九州まで動く、台湾、西南諸島まで想定したものはマグニチュード9.5という。マグニチュードが0.1上がるとエネルギーは倍になるという。今の想定の高さは22メートルというが、そうすると津波高が40メートルから60メートルになるという。学術的には確立されていないが、そういったことも防災計画にいれていかないといけないと思う。今1900ガルの設計だというが、そうすると6000ガルを想定しなければいけないと思うが、市の考えはどうか。

市長からの回答

これまで3回視察しました。市民、自治体がどう感じ、どのような状況かを見てきています。最近伺った浪江町では町長と意見交換をしました。そのなかでの確に情報を収集すること、それを伝達することが最も重要だと感じたところです。それを第一に考え安全、安心に努めていきます。再稼動については、浜岡原発は菅総理大臣が「危険である」として停めた、非常に重いものと考えています。廃炉、永久停止とか考え方はあるわけですが、現時点で再稼動を認める考えはありません。中電の対策工事、電気料金値上げについても再稼動ありきではなく、話し合いのテーブルに乗るつもりもありません。

(閉会：20:30)